

3 OECD 統計の品質枠組みを整える

Enrico Giovannini and Denis Ward – Statistics Directorate, OECD

QUALITY FRAMEWORK FOR OECD STATISTICS GETTING OUR OWN HOUSE
IN ORDER

A. 序

国際機関が配布する統計の品質は、二つの側面、すなわち、受け取った各国統計の品質、およびデータとメタデータの収集、加工、分析および配布という内的な過程に依存する。幾多の分野で、各国統計は国際基準に密接に対応する形で発展している。他方で、国際的レベルでの統計過程は国のレベルで開発された最善の実践からひきだされていることが多い。このように、二つの側面の間には明確な内的依存関係がある。

今日までの国際機関あるいは国を越えた機関によるデータの品質についての活動は、加盟国の統計機関が編集し配布したデータの品質を測定し、改善するための品質枠組みと過程を中心にしてきた。しかし、以下の本論文のパートCで描かれるOECD統計の質枠組み(QFOS: the Quality Framework for OECD Statistics) (OECD 2003)は、各国レベルで編集されているデータの品質への積極的副次効果もまたあるだろうが、OECDが機関の内部的な統計的過程と管理の改善を通じて収集し、編集し、配布するデータの品質の改善に焦点をおく。

QFOSの発展のための出発点は、他の国際機関(例えば、IMF,ユーロスタット)や国家統計局(例えば、カナダ統計局)が、これ以前に遂行した大きな作業であった。それは、それら組織と生産した統計の品質を改善するための品質枠組みの発展に必要としたのであった。OECDの品質枠組みは、この作業から得るところが多かったし、既存の品質構成要素の定義やアプローチ他を、OECDの文脈に適合させることによって、「はじめから繰り返す」ことを避けた。

この論文のパートDは、この枠組みの運用の第一年である2003年の新しい活動と小数の選択した既存の統計活動を振り返る中で、この枠組みの実施の簡単な叙述を提供する。このパートはまた、レビューの第一ラウンドから学んだ教訓の概略を示す。

本論文は、パートEで、国際機関の間の共通のICTと統計インフラストラクチャ及び品質枠組みを発展させることの可能性と利益についての論議をもって結論とする。

B. 背景とOECDの脈絡

OECDはほとんどすべての他の国際機関と協力協定をむすんで幾多の分野で活動している世界的によく知られた機関である。OECD事務局は、加盟国と重要な非加盟国での開発を監視する進行中の作業のために、広範にわたる比較可能な統計を必要としている。OECD

はまた、外部の利用者に対して非常に多くの統計を配布している。それら統計の比較可能性と信頼性を確保するために、事務局は国際統計基準と最善の方法論的実践の発展と採用を促進している。この組織は、政府にとって政策的関心のある新たに生じた分野での勧告を開発することを求められることが多い。多くの例において、このことは、新しいタイプの統計、新しい統計基準と統計制度を必要とする。これらの活動は、正式には国家統計局(NSOs)、中央銀行、他の政府機関そして他の国際機関と協力して行われる。

OECDの統計活動の組織は「分散型モデル」に基づいている。このモデルは、様々な統計が、分析的研究と政策分析の責任を持つ部署にわたって、統計局と8つの他の局の両方によって開発されていることを意味する。

OECDはその分析作業の品質と、その作業を支える統計との両方について高い名声を得ている。幾つかの領域では、OECDの統計は、国際的に、カバレッジ、適時性、そして比較可能性の点で「最善」と認められている。委員会、ワーキング・パーティを通じて作り出された国内的、国際的専門家のネットワークは、OECDに、新しい統計を生産し、新しい定義、分類および基準を開発する点での指導的役割を果たしながら、新しいトピックについての研究活動に乗り出す（そしてデータ収集をする）可能性を与えている。

各国と国際的なレベルのほとんどすべての機関と共通に、OECDは過去数年に生じた課題—統計に関する新しい情報通信技術（ICT）の発展、国際統計制度の変化、OECDの機関の予算制約、新しい統計開発に向けてより多くの資源を投入するために統計活動の効率性を改善する必要、から生じた—に直面している。これらの課題に立ち向かうために、OECDは2001年に新統計戦略（OSS：new Statistics Strategy）を開始した。

OSSの実行は3年間にわたって進められており、この戦略の要（かなめ）になる要素において幾多の重要な目的が達成された。これらには以下の点がある。

- OECD統計作業計画（OSPW:OECD Statistical Programme of Work）の第一版の2003年の出版。これは、事務局が遂行した統計活動の主な特徴を、構造的な形で、OECDの利害関係者と外部の顧客に示すまさに最初の機会となった（OECD 2004）;
- OECDの統計情報システムの開発への大きな投資。このシステムは現在、事務局内で働く統計家に、データとメタデータの収集、確認、貯蔵、検索および配布に関する新しいそして先進的な共同のツールを提供し始めている(Samuelson and Thygesen 2004)。
- 利用可能な課程数を適切に増加させての統計家の訓練分野での幾多のイニシャチブの実施。OECDの品質枠組みの脈絡で行われた最近のOECDの統計家の満足度調査は、スタッフがOECDの統計家の労働条件と、統計活動を遂行するために利用可能な専門的ツールとについて、彼らの見方と憂慮を表明する機会を提供した。
- 2002年末のQFOSの第一版の開発と2003年における新しい統計活動と少数の既存の統計活動の両方についてのレビューでの使用。

OECDの分散型の統計環境およびOSSの他の要素との脈絡の下で、QFOSは、OECD統計に体系的にアクセスし、比較し、さらに改良するために使うことのできる共通の枠組みを提供する。品質枠組みは、統計の収集と配布に責任を持つOECDのすべての部局にわたっ

て適用される。

- 品質問題の現行の確認と解決のための目に見える体系的なツールを提供し、
- 品質を保証するためにOECDが使用する過程の透明性を大きく増加させ、そして
- OECDの管理協議会と国別代表の心に、OECDの分析作業における高い品質の統計の中心的役割と、OECD統計が高品質であり続けることを保証する必要とコストの意識を強める。

OECD全体を通じて上級管理者の支援が、発展と特にQFOSの実施において要（かなめ）となる側面である。そういった支援なしには、実施はごく部分的に成功するに過ぎないだろう。OECDの文脈においては、上級管理者の支援は、事務総長、管理協議会全体、OECDへの個別加盟国の代表、統計活動に関与する他のOECD部局の局長、OECDの成功技術ネットワークと出版およびコミュニケーション領域のスタッフの係わりあいを伴う。それらの内部的利害関係者の指示の獲得には、開発と協議の局面の両方での長い協議を要した。

C. 統計のための品質枠組み (QFOS)の叙述

QFOSは四つの構成要素を持つ。

- 品質の定義とその次元
- OECDの統計活動が遂行される基礎になる広い原則あるいは中核的価値の集まり、および統計生産過程のすべての局面にわたる品質ガイドライン
- 提案された新しい統計活動の品質を保証する手続き
- 定期的に既存の統計活動の品質を評価する手続き

データの品質の定義と次元

品質は利用者のニーズの点から見ての「利用に対する適合性(fitness)」として定義される。この定義は、過去に品質が正確性と同じものとされたときに通常用いられたものよりもより広い。現在では他の重要な諸次元があることが一般的に認識されている。データが正確であっても、それが利用するには遅い場合、あるいは簡単にはアクセスできない場合、あるいは他のデータと矛盾するようにみえる場合には、良い品質であるということとはできない。このように品質は多側面的概念である。最も重要性を持つ品質特性は、利用者の見方、ニーズそして優先度—これは利用者グループごとに違う—に依存する。

幾多の統計機関がすでに品質の次元を確認し、上述のように、それらは、OECDの文脈の適応させられている。このようにしてOECDは、品質を七つの次元でみている。すなわち、適合性、正確性、信頼性、適時性、アクセス可能性、翻訳可能性、および整合性 (relevance; accuracy; credibility; timeliness; accessibility; interpretability; and coherence) である。もう一つの要因は費用効率性である。これは厳密に言えば品質次元ではないが、以前にOECDの統計的産物に対して引用された七つの次元の一つあるいはそれ以上のありうる適用の際になお、重要な考慮すべき事項である。

OECDの中核的価値

品質次元に加えて、OECDの統計家にとっての次の「中核的価値」が、国連政府統計の基本原則を重要参考文献¹として使いながら、確認されている。

- a. OECD統計は不偏的基礎の上に編集され、利用可能とされている。OECD統計は、科学的原則と専門的倫理をふくむ厳密に専門的な考慮にしたがって生産されている。
- b. OECDは、その統計を生産するために採用された出所、方法、手続きについての科学的標準に従って統計的情報を示している。
- c. 統計的編集のためにOECDが収集した個別的データは、厳密に秘匿性を持ち、統計的目的以外には使われないと考えられる。秘匿データをすべてのありうる開示から完全に防ぐことを保証するために特別な手段がとられている。
- d. OECDの統計制度が運用される際の内部的規則や手段は公表されている。
- e. OECDは、その統計活動を国家統計機関および他の国際機関との調整下に遂行することを義務付けられている。
- f. OECDは、すべての国における政府統計のシステムの発展に寄与するために統計における二国間と多角的な協力を発展させることを義務付けられている。
- g. 利用可能な資源の制約内で、OECDのデータ生産物は、OECDの品質枠組みに概略を述べた7つの品質次元の各々の見地において最善可能な全体的品質をもつ。品質を保証する点で取られた努力は、統計的活動の大きさ、活動の目的、およびその頻度（すなわち、それは、規則的に繰り返されるか、一時的か、あるいは一度限りか）に対応している。

OECDの統計活動の品質を保証する手続き

以下に要約される手続きは、単一の統計活動に向けたものである。これらの手続きはQFOSに十分に文書化されている。しかし、統計的活動は孤立して存在するものではない。それらは同じ統計的インフラストラクチャ、およびその生産物が組み合わせで見られ使用されうるといふ事実と一緒に結ばれている。OECDの統計インフラストラクチャの改善は、上述のOSS内部での他のイニシャチブの主題である。しかし、ガイドラインは、統計活動を支えるインフラストラクチャーコンピューティング、方法、および出版を明白には含んでいないが、それらは統計活動間の相互関係を、それらが同時に利用可能とするデータを考慮することを通じて念頭に入れる。

新しい活動の品質を保証する手続き

新しい統計活動の発展する際の主な段階は以下のように定義される。

- a. 一般的な用語でのデータ要求の定義；
- b. 現在利用可能な他のデータの評価；

¹ OECDの統計家はまた、統計データの収集、加工、貯蔵および配布に使われた方法と手続きに関して、国際統計協会（ISI：International Statistical Institute）の専門家の倫理宣言にしたがって彼らの仕事を遂行する義務を負う。

- c. 統計活動の計画と企画；
- d. OECD内外のデータベースからのデータとメタデータの取り出し；
- e. 特定のデータとメタデータの収集機構の実施；
- f. データとメタデータの確認、分析および評価；そして
- g. データとメタデータの配布

各段階について、品質問題と取り上げる際に助けとなる利用可能な道具がQFOSの中で確認される。特に、一組のガイドラインと具体的な手続きが、OECD内部と他の統計機関での既存の優れた実践を考慮に入れて、段階ごとに準備されてきた。活動の管理者に課せられる負担を最小にするために、手続きの簡略化された版が、繰り返すではなく一回だけのために計画される統計活動にとっては適切である。

既存の活動の品質を検討するための手続き

OECD全体にわたって行われた既存の統計活動の品質をレビューする手続きは、この検討が数年にわたるローテーション基準で行われるだろうという事実を考慮に入れる。この段階は以下のとおりである。

- a. 次の年の間にレビューされる統計活動のOECD統計グループ²（SPG）による確認；
- b. 統計的活動の管理者と職員による自己評価で、品質問題のまとめと可能な改善の優先順序をつけたリストを、それらの実施に必要な追加的資源をふくめた**簡単な報告書**（通常は10ページ以下）にまとめられる。QFOSの文書化は、自己評価のひな型と評価をどう進めるかについてのより詳細なガイドラインをふくむ；
- c. 主要な利用者による自己評価報告のレビューとコメント；
- d. 自己評価報告についての、SPGが指名した専門家によって調整された統計的、情報技術および配布職員によるレビューとコメント；
- e. すべてのコメントを組み合わせ、活動管理者と指名された専門家、およびSPGへの報告の一覧表を添えた最終報告の準備；
- f. SPGによる報告書についてのすべての問題についての討論と解決策、および報告書の適切な局長への伝達；
- g. 局長による、そして可能ならばOECD内での優先度の高いプロジェクトに対する中央で配分された中央優先基金（Central Priorities Fund）を通じての、選択的な品質改善イニシヤチブへの資源の配置；
- h. 提案された品質改善イニシヤチブとその実施のプランについての主任統計家（the Chief Statistician）による利害関係者へのフィードバック。

提案された新しい統計活動と、既存の統計活動の手続きについてのより詳細な概観が、本論文の終りにそれぞれ表1と表2として用意されている。また既存の統計活動のための自己評価のひな型も用意されている。これらの手続きとひな型はパートDで叙述した品質レ

² OECDで統計収集と配布をしている局の各々からの代表者からなる。

ビューの2003年ラウンドで用いられた。

段階 (b), (c), (d) と (e) は、この手続きの中核である。それらは、活動管理者による品質の自己評価の提供、利用者と専門家によるそのレビュー、および最終報告へのすべてのコメントの混合をふくむ。そういったレビューに供される可能性のあるOECDの活動は約70あるが、この手続きが柔軟であることが決定的である。この文脈の下で、以下のことが認められる。

- この手続き自体は、毎年レビューされ、うまく調整させるべきである。毎年末前に、OECDの主任統計官は、もしあればSPGに品質枠組み及び/あるいは品質ガイドラインに対する必要な改善を提案する。SPGは最後に提案された修正を承認する。更新された品質枠組みとガイドラインは、イントラネットの統計サイトで入手可能にされる。
- レビューの規模とそこに投資された資源は、想定される便益と調和したものであるべきであり、特に単純化された過程が小規模/低い外形の活動に適したものかもしれない。

D. 今日までのQFOS実施の経験と教訓

QFOSの最初の運用期間中に、既存の活動についての七つのレビューが行われた。すなわち、四半期国民勘定、年次労働力統計、対外債務統計、教育統計、移民統計および産業分析のためのSTANデータベースについてであった。これらの活動の管理者は、この活動は有益であり、自己評価のために使われた調査票の簡単化に対する具体的提案をもたらした。

2004年の品質レビューは、年次国民勘定、国際収支、構造的企業統計、機関投資家、グローバル化統計、債権者報告制度、分析的データベース、保健統計、合成先行指標、および社会的支出統計について行われた。さらに、品質レビューが確認した勧告が2003年には実施された。最後に、枠組みの初版が統計情報システムの利用可能性と2003年のレビューで行われた経験を考慮して更新され修正された。例えば、改定政策、マイクロデータの管理、そして引用の実施の領域についてより正確なガイドラインが用意され、他方で、自己評価のための調査票は短いものにされ、単純化されるだろう。

主要な便益は、この組織を管理している協議会と個別の国の代表の眼からみでのOECDの作業における高品質の統計の重要性を高めたことである。QFOSはOECD内の目立つ文書であり、この組織全体にわたる統計的インフラストラクチャの発展と（収集/配布および統計基準の両方にわたる）進行中の統計活動に向けた適切な資源配分のためのニーズについての論議のための脈絡を提供している。OFQSとここから発せられる品質レビューが、統計の可視性とこの組織の内部でのその重要性の増大に寄与してきた。

品質レビューの2003年ラウンドから学んだ教訓の点で、第一の教訓は、予想より長くかかった（最初のレビューは2003年5月に開始され、最後のレビューは2004年5月に終了するであろう）レビューの最初のラウンドを終えるのに必要な時間に関わる。しかし、この遅れは、この手続きの弱さと必ずしも考えられるべきではない。事実

- 個別のレビューの日程表は年間の全体的作業量を活動管理者が考慮することによってたてられる。これは部局にわたって大きく違いうる。
- レビューはある場合には適切な委員会あるいは作業部会を関与させて非常に注意深く行われ、時間を要した。さらに、ICT問題の深い分析は時間を要したが、そういった分析の最終結果は、このレビューの構成部分となった。

活動管理者はこの活動を非常に有効であるとみた。自己評価に用いられている調査票は改善される必要があるが、それはうまく構成され、様々な問題の助けとなると考えられた。自己評価は非常に正確で透明である。すべての管理者は、それらの活動が以前には取り上げられなかった新しい問題を確認する点で助けとなったと報告した。さらに、品質レビューの過程は、「水平的な」諸局が活動的管理者と協力して可能な「共同の」解決策を確認しながら、様々な見地から同じ活動の検討することを実際に推し進めた。

このレビューは、新しい統計情報システムが開発されつつある中で行われた。データとメタデータの収集、管理および配布のために以前に使用されていたツールの弱点が、改訂下の活動の管理者によって確認されたときにはいつでも、論議は直ちに以前の状況を改善するための新しい手続きを使う可能性に焦点をおいた。結果として、2003年と2004年に分析された活動は統計活動の効率性とともになんらかの品質次元（特に、アクセス可能性、翻訳可能性、および一貫性）の関連する改善を伴いながら、2004年に新しいICTツールを採用するだろう。

予想通り、最終品質報告書にふくまれている勧告の実施は、現在の手続きの変更と将来の改善を求めている。現存する予算制約が実施の過程を遅くするだろうが、そういった実施コストを直接的に吸収している局は少ないことに注目するのは興味深い。他方で、統計改善のために中央優先基金によって供給された限られた資源の利用は、個別の局が提供する資源を包括する上で決定的に重要であり、いくつかの勧告（例えば、STANデータベースの場合には、追加的資源は、新しいデータベースとデータとメタデータを確認し管理するためのソフトウェア）の実施を可能にした。

E. 国際機関向けの品質枠組み：主要な課題

OECDの統計戦略の文脈の中でのQFOSの発展において要（かなめ）の要素は、OECDの様々の局にわたって働いているOECDの統計家の間での協力の意識を強めることであった。これはITインフラストラクチャの発展への参加を通じて達成されつつある。それは、局レベルとOECD全体の両方で遂行される活動の、それらのツールの維持と支援という点での効率性の改善をもたらすだろうからである。QFOSとより広いOSSの両方にとって不可欠の要素である様々なフォーマルとインフォーマルな会議の過程は、共通の問題と課題についての論議と解決を通じて、OECD全体にわたる統計の「水平的」見地を強化する。

既存のOECDの分散型統計の環境の内部での統計家の協力の強化という考えは、国際機関の間での共通のITと統計的インフラストラクチャおよび品質枠組みの発展を通じて獲得できる同じような強化の可能性と便益と類似している。本論文の最後の部分は、この分

野での可能性を論じる。

内的な品質管理(quality management)アプローチの発展に対して、NSOと国際機関が払った注意と比較すると、後者が前者に遅れをとっていることは明白である。過去10年にわたって、品質管理アプローチを発展させ、比較し、改善するためにNSOの間で定期的な接触が行われるようになった。そういった接触は、国際機関が組織した諸会議やワークショップを通じて促進され、用意されたことが非常に多かった。しかし、国際機関が自分たちが国家機関に勧告しているアプローチを自らに適用し始めたのはごく最近のことである。さらに、国際機関がその資源の大きな部分を、各国のデータの提供者が生産するデータの品質を改善することを激励するための方法論的標準に使いながら、なお自らの統計実践を改善するために品質管理アプローチを採用する共同の努力をわずかしかはらわなかったのは全く矛盾している。

こういった状況についての可能な説明は、国際機関が自らを検査する仕方に見出すことができる。幾多の国際機関は、標準と研究活動の開発における協力の長期の実りある歴史を持ってはいるが、それらは自らを「国際機関のシステム」の一部とは考えてこなかった。言い換えれば、それらは、主として、自らの国別の顧客を念頭において、活動を可能な限り調整する（有効性を極大化し、重複を最小にする他）ように努めながら自らの活動を発展させたが、他の国際機関を、自らの内的過程を改善するための可能な協力者とは見ないできた。

制度的環境は、国際機関における品質管理問題の共通の解決法を発展させることの難しさの大きな説明になる。統計部門は自らが属する機関において、異なる役割と位置を持ち、他の局において遂行される統計活動を調整する能力は大きく異なる等である。これに加えて、国際機関の間の競争がいつも、そして特に、国際的共同社会が新しい統計的ニーズを表明するときに生じる。最終的には、国際機関の統計活動の調整に責任を持った以前の国連機関(1990年代に創設され、2001年に廃止されたACC)は、統計活動を管理するために国際機関を助けるための共通戦略を発展させる努力をしなかった。

他方で、統計活動は、国際機関が遂行する全体的活動のごく小さな部分なので、国際機関による統計の収集、分析および配布に使われるICTによる解決は、自らの機関の他の部分の要請と対応して選択されることが多い。したがって、国際機関の統計部門は、幾多のNSOが過去数年にわたって行ってきたように、同じ問題を管理するために共通の綱領やソフトウェアによる解決を発展させる機会を持たなかった。

幸いにも、最近の兆候は、国際機関が、その役割と活動の組織を再考する必要の認識がかなりの程度であることを示している。国際機関の統計作業の調整のために、統計活動調整委員会(CCSA : The Committee for the Coordination of Statistical Activities)が2003年に創設された。それに加えて、七つの機関(IMF, UN, OECD, Eurostat, ECB および国際(the Bank for International Settlements) および世界銀行)は新技術に基づいた「データとメタデータの交換基準」(SDMX : Standards for Data and Metadata Exchange) を発展させるタスクフォースを設置し、少数の機関が、新しいソフトウェア解決法を発展させ、共有しながら、そのICTシステムの大きな改組を計画した。最後に、国際機関は、新しい方法論的基準を、特に経

済統計について発展させるために、次の5年にわたって大胆な課題を設定した。

国際機関の間での二機関および多機関の間での協力が底上げアプローチにしたがって、特に大きな機関の間で改善されてきたが、ICTインフラストラクチャと品質問題の両方を含むより一般的な「戦略」が、国際統計の品質の改善を最終目的にすることを念頭において、国際機関の活動を方向づけ、新しい配置と技術変化が作り出す機関から利益を得るために、今や必要である。

F. 結論

QFOSについてのOECDの経験は、その開発と実施の第一年の両方の点で、極めて積極的であり、われわれは他の国際機関が同じ過程を真似することを強く奨励したい。しかし、この作業は、枠組みを開発し、その実施を監視する仕事に責任をもつ機関内の支援単位と品質レビューを行う組織の他の部分の両方にとって、この活動の成功のために必要とされる時間と努力についての現実的な事前の理解を伴ってだけ行われるべきである。この点での必須の条件には、その組織内の大部分の年配の人々の目に見える支援、開発および実行過程を支援しそして隠す「政治的」環境とニュアンスの理解である。

最後に、上のパートEで論じたように、国際機関は幾多の共通の課題に直面しており、ICTを活用すること、品質枠組みの発展、国際統計標準を発展させ促進させる我々の作業の長所をとりあげる相乗作用がある。OECDは国際的統計戦略の脈絡の下でそういったイニシアチブがとられることを強く支持し、この領域でのCCCAの討議を歓迎する。そういった戦略がいかにして「正式であり」、およびその発展におけるCCAの役割は、未解決の課題である。

文献

OECD, 2003, *Quality Framework and Guidelines for OECD Statistical Activities*, Paris, available at www.oecd.org/statistics

OECD, 2004, *The OECD Statistical Programme of Work*, Paris, available at www.oecd.org/statistics

Samuelson L. and Thygesen, 2004, *Building OECD's New Statistical Information System*, mimeo

表1 提案された新しい統計活動³

何を	いかに	潜在的問題	品質枠組み内で使用できる装置	共同のツールへの貢献
(a) 一般的表現での産出データへの要求の当初の定義: カバレッジ, 内容, 利用者, 利用	データ要求についての当初の見方を以下を通じて獲得する: 1. 委員会および内部利用者をふくむ利用者との討議 2. 他の局との討議	1. 適切性の評価における困難		
(b) OECD 内部で現在利用可能, および他の国際的, 各国組織から現在利用可能なデータの評価, 及びデータへのニーズの確認	1. 論評文献 2. OECD 内部で現在利用可能なデータの検討 3. 他の国際機関からの現在利用可能なデータの検討 4. 各国組織から現在利用可能なデータの検討	1. OECD 内で入手可能なデータを確認し評価する点での困難 2. OECD 外部で入手可能なデータを確認し評価する点での困難 3. 入手可能なデータとメタデータを解釈する点での困難	1. OECD 統計作業プログラム(OSWP) 2. OECD データベースへの入り口 3. UN/ECE 総合的統計活動提示データベースおよび国際機関のインターネットサイト 4. OECD の統計用語集 5. SPG メンバーとの協議 6. OECD 品質ガイドライン 7. OECDStat ⁴	1 SPG に対して提案された活動についての簡単なノート
(c) 統計活動のすべての段階をふくんだ計画と企画	1. 資源の要求と時間枠組みの評価 - IT の見地 - 必要な技能 - 資金的意味 2. 以下の点での企画活動 - 定義的内容とカバレッジ - 統計的方法論, IT のニーズ - マーケティングと配布 3. 各国と国際統計組織内の専門家との接触確立	1. 必要な資源の過小推定 2. 必要な時間の過小推定 3. 統計的方法の貧困な選択 4. 国際機関との調整に責任ある各国統計の専門家とのコミュニケーションと関与の欠如 5. 非効率な IT 解決法 ⁷	1 分析的統計タスクフォース (ASTF: the Analytical Statistical Task Forces) を通じての ITN, STD, PAC, および事務局内で活動する他の専門家との接触 2. IT 解決法の工具箱 3. OECD の Statwork 4. 統計家のための訓練プログラム 5. OECD 品質ガイドライン 6. OECD の統計用語集	1. 活動のための OSWP の挿入の完成 2. 適切な国際的, 国内的統計機関への活動に関する情報

³ OECD 統計活動プログラムの用語法との対応において, 統計活動は, インターネット, イントラネット, OLISNet, CD-ROM, その他, あるいは統計的又は広い統計的内容をもって分析的である (分類されるかされないかわからない) 出版物を通じて内部的あるいは外部の利用者が利用可能なデータセットあるいはデータベースといった少なくとも一つの統計的産物を生み出す活動として解釈される。

新しい統計的活動は進行中—すなわち定期的間隔で繰り返されるか一度限りのものである—のものとして提案できる。

以下の表 2 は, 既存の現行統計活動のための過程の概略を描いている。

⁴ OECDStat は, 新しい OECD 統計情報システムである。それはデータウェアハウス—ここには最終統計データが貯蔵される—および OECD 統計データベースからデータとメタデータをひきだす一連の手続きからなる。数ある中で, このシステムは個々のデータベースにおいて利用可能な変数のカタログを提供する。付録 4 参照。

⁵ 「すべての段階」は, 完全なデータのライフサイクル, すなわち, 定義, 実行可能性研究, 収集, 管理, 配布その他, を意味する。この段階で暴露される問題と行われた企画決定は, 後続する段階で, 再検討され, 練り上げられる。すなわち, 段階の間に交互作用がある。

⁶ これは以下をふくむ, ソフトウェアの選択, データベースのデザイン, データとメタデータの貯蔵ニーズの定義, (必要なら) 国レベルでの新しい調査の定義, 秘匿データの取り扱いの規則の規定, その他,

⁷ 例えば, 内部利用者によるデータベースへのアクセスの困難, 他のデータベースとのデータとメタデータの交換の困難, 秘匿データの開示, 非共同のソフトウェアの使用, 他につながる。

何を	いかに	潜在的問題	品質枠組み内で使用できる装置	共同のツールへの貢献
(d) OECD の内外のデータベースからのデータの抽出	1. データへの直接的アクセス、すなわち、データの収集あるいは伝達においてデータ提供者を関与させる必要なしのアクセス	1. 内外のデータベースの評価における非効率性 2. データとメタデータの解釈における困難 3. データベースにわたっての非整合性	1. OECD の統計用語集 2. OECD 統計データベースへのゲートウェイ 3. OECD 品質ガイドライン 4. OECDStat. 5. 既存の出所からデータとメタデータをひきだす共同の手続き	
(e) 新しいデータ収集機構の実行	1. データ提供者との接触 2. 調査票の準備とテスト ⁸ 3. 調査票の配布 4. データとメタデータの収集/伝達	1. 国のデータ提供者との不十分な接触 2. 正しくないかあるいは不十分な調査票のデザイン 3. 不適切な定義の使用 4. データとメタデータの伝送のためのシステムの不十分な選択	1. OECD 統計用語集 2. 国際的統計ガイドラインと勧告 3. OECD 品質ガイドライン 4. OECD の Statwork ⁹ 5. 既存の出所からのデータとメタデータをひきだす共同の手続き	1. OECD 統計用語集の更新 2. OSWP の更新
(f) データとメタデータの確認、編集、貯蔵、分析および評価	1. 個別データの確認 2. データの整合性の評価 - データセット内部のデータ項目にわたって - 時間にわたって - 国を越えて - 他のデータ源と 3. 目的との関連でのデータの全体的評価	1. 不適切あるいは不十分な統計方法 2. 同じ系列について諸国にわたって異なる方法	1. OECD の統計用語集 2. OECD 統計データベースへのゲートウェイ 3. 系列の中断を扱う統計的および計量的ソフトウェア 4. STD と他の OECD 専門家からの助言 5. OECD の Statwork 6. OECD の Stat 7. OECD 品質ガイドライン	1. データカタログの更新 2. OECD 統計用語集の更新
(g) データとメタデータの配布	1. 紙出版物 2. オフライン・データベース 3. オンライン・データベース 4. OECD 統計ポータルを通じて	1. 不十分な配布手続き 2. データベースにわたっての不一致 3. メタデータの不適切な提示 4. 秘匿データの開示 5. 信頼性に影響を与える不適切なデータの発表手続き	1. OECD スタイルガイド 2. OECD 品質ガイドライン 3. ITN と PAC からの援助 4. OECD の Statwork	1. OSWP の更新 2. OECD 統計用語集の更新 3. OECD.Stat への貢献

⁸ 調査票は、国のデータ提供者からのマクロあるいはマイクロレベルのデータ、あるいは企業、世帯その他からのマイクロレベルのデータの収集に向けて設計される

⁹ OECD の Statwork は、データあるいはメタデータの収集、貯蔵、確認および配布のための一連の IT ツールである。それはまた、電子的調査票の設計のためのツールをふくむ。

表2 既存の統計活動のための手続き¹⁰

何を	誰が	目標日/期間	どのように	潜在的問題	使用できる装置	産出物
(a) 起伏のある半年歴 ¹¹ でのレビューのための統計活動の確認	SPG	1月末(年t)	1.局が示したレビュー提案と日程の論議	1.品質レビューのための日程への局の同意の遅れ	1.OECDの統計活動プログラム(OSWP)	年末までにレビューされる一連の統計活動
(b)自己評価(以下のシートでの自己評価の離分) ¹²	統計活動の管理者と職員	3カ月	1.大文字の委員会と専門家をふくむ主要な利用者との協議 2.適切な国家機関 ¹³ と国際機関との協議 3.現在の実践とガイドラインの比較 4.現在採用されている手続きの費用-効率性の確認	1.作業上の関心は、品質レビューから離れて優先度をとりあげる 2.すべての品質次元の不十分な評価 3.品質改善の確認の貧しさ 4.利用可能な資源	1.自己評価のための品質チェックリスト 2.OECD品質ガイドライン	品質問題の要約、可能な改善の優先度づきのリスト、および実施(新しいデータ開発を含んだ)に必要な(あるとすれば)追加的資源の評価、をふくむ自己評価報告
(c)自己評価報告の利用者によるレビュー ¹⁴	統計活動の管理者と職員	1カ月	1.自己評価のコメントするための大文字の委員会およびまたは専門家をふくむ利用者への依頼	1.主な利用者は詳細なコメントをすする時間あるいは資源を持たない		利用者の見地からの追加的な潜在的改善と優先度の指定
(d)自己評価の水平的レビュー	統計活動の管理者と指名された専門家 ¹⁵	1カ月	1.「共同」の見地から自己評価についてコメントすること、改善を示唆すること	1.品質次元の不正確な評価 2.提案された改善の不正確な確認	1. OECD品質ガイドライン	水平的見地からの追加的な潜在的改善と優先度の指定と資源評価の評価
何を	誰が	目標日/期間	どのように	潜在的問題	使用できる装置	産出物

¹⁰ OECD統計活動プログラムの用語法との対応において、統計活動は、インターネット、イントラネット、OLISNet、CD-ROM、その他、あるいは統計的又は広い統計的内容をもって分析的である(分類されるか、されないかにかかわらず)出版物を通じて内部的あるいは外部の利用者が利用可能なデータセットあるいはデータベースといった少なくとも一つの統計的産物を生み出す活動として解釈される。表1が提案された新しい統計活動の手続きの概略を示す。

¹¹ すべての統計活動が4年間の時間枠組みでレビューされよう。レビューは大きな技術的あるいは組織的変更が起こったとき(例えば、データベースを維持するために使われたソフトウェアが変更改善されなければならないとき)に行われる。

¹² 自己評価の規模は活動の規模と意義に対応するべきである。

¹³ 国家統計局だけでなく他のデータ提供者もふくむ。

¹⁴ 活動(c)と(d)は通常は並行して行われる。

¹⁵ 各活動あるいは活動のグループについてSPGは、統計活動の責任者と協力して、水平的レビューを行い、最終品質報告を起草する責任を持つ専門家を指名するだろう。水平的レビューはSTD、PAC、INTの専門家や他の統計家の援助とともに行われる。

何を	誰が	目標日/期間	どのように	潜在的問題	使用できる装置	産出物
(e) 最終品質報告の用意	統計活動の管理者と指名された専門家	1カ月	1.自己評価とレビューを通じて受け取ったコメントとを総合する 2.可能な品質改善の提案の最終リストを確認すること	1.管理者、利用者、および水平的局の専門家からの矛盾した見方	1.OECD 品質ガイドライン	品質問題の要約、可能な改善の優先度づきのリスト、および実施に必要な資源の評価をふくむ最終品質報告、SPG の表付き
(f)SPG によるレビューと適切な局への公式報告の伝送	SPG	1カ月	1.SPГ メンバーは結論についてコメントし、詳細を論議し、あるいは彼らの危惧を掲げる、 2.あらゆる危惧についての決定の後に、あるいはコメントが無いときに、報告は公式のもののみなされる	1.SPГ メンバーの反応の遅さ		品質問題の要約、可能な改善の優先度づきのリスト、および実施に必要な資源を含む最終品質報告の適切な局への送付
(g)品質改善イニシャチブのための資源の割り当て	適切な局長、予算委員会、事務総長、主任統計家	12月末まで	1.局レベルでの優先度を評価すること 2.CPF によって資金供与されたイニシャチブの確認	1.改善が、資源の欠如で行われないこと		作業プログラムに組み込まれた品質改善イニシャチブ
(h)OECD統計を改善するためのイニシャチブについての利害関係者へのフィードバック	主任統計家	1月末まで(年t+1)	1.品質枠組みとガイドラインへの変更(もしあれば)を提案すること 2.提案された品質改善イニシャチブを要約すること 3.どの提案された改善が実施され、どのようにかを示すこと	1.OECDの信頼性は、品質問題が解決しないなら影響を受ける		品質枠組みの実施に関するSGと協議会への年次報告

表3 既存の統計活動の自己評価の雛形

何を ¹⁶	どのように	潜在的問題	使用できる装置
1 適合性	1.既に収集されているデータの変更あるいは新データの開発を求める政策ニーズの確認 2.マーケティング活動からのフィードバックの分析 3.OECDの一般的戦略の考慮	1.統計の生産を中断する優先度での変更 2.他の局および/あるいは機関のイニシャチブとの重複 3.この機関の種々の部分からの異なる優先度の間の緊張	1.UN/ECEとの統合的提示 2.外部的出所への入り口 3.OSWP 4.OECD統計データベースへの入り口 5.PACによる支援
2 正確性	1.原出所で正確性問題の評価 2.データとメタデータを管理し、一貫性(時間にわたって、国を越えて、他)を改善するために現在使われている統計的処理の評価	1.正確性の見地からの最適ではない出所の使用 2.データとメタデータ不適切な検査 3.正確性を評価するための不十分な定義 4.不十分な定義あるいは分類の使用 5.一貫性を改善する方法の不十分性	1.OECD統計用語集 2.STDと他の局による援助 3.OECD品質ガイドライン
3 信頼性 (Credibility)	1.データの品質が評価されている現在の方法を評価すること 2.科学的原則と専門的論理が実施されている方法と政治的圧力がどう処理されているかを評価 3.統計を生産するために使用されている手続きの透明性の評価	1.専門機関としてのOECDのイメージを傷つけること 2.OECD統計における利用者の信頼を傷つけること	1.OECD品質ガイドライン
4 適時性と定時性	1.データ収集、確認、管理および配布手続きの効率性と品質の評価 2.データ発表の日付の確認	1.データ獲得および確認過程の不十分性あるいは不適切性 2.データ配布過程の不十分性 3.締め切りへの遅れ 4.現行手続きの不適切な使用	1.OECD品質ガイドライン 2.STD,ITNおよびPACによる援助
5 アクセス可能性と翻訳可能性	1.データとメタデータの管理、配布手続きの評価 2.データとメタデータへのアクセスのための異なる経路についての利用者のニーズの評価 3.OECD統計情報システムへの生産物の統合の評価	1.データとメタデータの不十分、あるいは不適切な管理・配布システム 2.データとメタデータの管理・配布のための非共同的ソフトウェアの使用 3.共同ソフトウェアの不適切な品質	1.OECD品質ガイドライン 2.OECD.Statworks 3.OECD.Stat 4.OECD統計用語集 5.STD,ITNおよびPACによる援助
6 整合性:データセット内、データセット間、時間にわたって、国を越えて	1.既存の系列間の重複の確認 2.OECDの様々の部分の異なる利用者ニーズに見合う方法の分析 3.一貫性を改善するための良い実践の分析および/あるいは開発	1.整合性を改善するための不正確なあるいは非効率な統計的対処 2.既存の推定値間の重複 3.非一貫性を解釈するためのメタデータの使用可能性の不十分 4.一貫していないデータに基づく政策的結論の弱さ	1.OECD.Stat 2.外部出所への入り口 3.OECD品質ガイドライン 4.OECD統計用語集 5.OECD統計データベースへの入り口 6.STDと他の局からの援助

¹⁶ 自己評価の雛形に使われるOECD品質次元はOECD品質枠組みの節1.1で定義される。